

仏教のすすめ

仏教の歴史

仏教書総目録刊行会＊編集／発行

2005年

ホームページアドレス <http://www.bukkyosho.gr.jp/>

読者の皆様へ

仏教は、キリスト教、イスラム教とともに世界三大宗教といわれております。この中でも仏教はその起源をいまから 2500 年ほどインドに遡ります。最も古い宗教ともいえると思います。

この長い歴史の中でインドから中国を経て日本へ伝来したのが西暦 500 年頃です。長い年月のあいだには釈尊(仏陀)の教えはさまざまな解釈をされ、多くの経典が生まれ、経典の解釈によっていろいろな宗派が創出し、現在に至っています。

釈尊の教えは口伝(師が弟子に奥義を伝える方法で仏典を筆録することはよしとされず口で伝えること)されていまして、現在でも受け継がれています。

しかしながら、僧籍にない信徒へのさらなる理解や一般の人への布教ということを考えますと書物を媒体とした方が、現代においては至極当然のことであり、仏教書籍の存在意義があることになります。

仏教書総目録刊行会といたしましては 1 冊でも多く、仏教書が普及することを目的に目録を刊行して参りました。現在、第 22 号を数え、収載点数は約 5600 点となっています。

このたび当会の活動の一環といたしまして仏教書のためのガイドブックを作成いたしました。仏教の簡単な歴史をはじめ、宗派系統図、キーワードなどを付した小冊子です。本ガイドブックは、当初、書店の仏教書販売担当者用に作成いたしましたので、読者の皆様からみますと不備の点もあることとは思いますが、すこしでも読書の一助になればとの思いです。ご高覧いただければ幸いです。

なお、仏教用語集(用語解説)を当刊行会のホームページに随時掲載しますので、そちらも併せてご利用下さい。(http://www.bukkyosho.gr.jp/)

2005 年 1 月 20 日

仏教書総目録刊行会

仏教の歴史・目 次

読者の皆様へ			1
仏教伝来の道（図）	4	奈良時代	14
仏教系統図	4	奈良仏教	14
仏教の流れ	5	平安時代	15
古代インド	5	最澄と空海	15
ブッダの時代	5	天台宗	15
悟り	7	真言宗	17
部派仏教	8	修験者・聖・行者	18
大乘仏教	8	末法思想と浄土教	18
密教	9	鎌倉時代	18
インド仏教の滅亡	9	鎌倉新仏教	18
中国仏教	10	浄土教	19
チベット仏教	11	禅宗	22
南伝仏教	11	法華信仰	23
朝鮮半島の仏教	12	旧仏教の改革運動	24
日本の仏教	13	室町・安土桃山時代	25
仏教伝来	13	禅と日本文化	25
仏教公伝	13	新仏教の定着	25
飛鳥・白鳳時代	13	戦乱期の仏教	26
聖徳太子と仏教	13	江戸時代	26
		江戸時代の宗教政策	26
		近・現代	28
		近代化と仏教	28

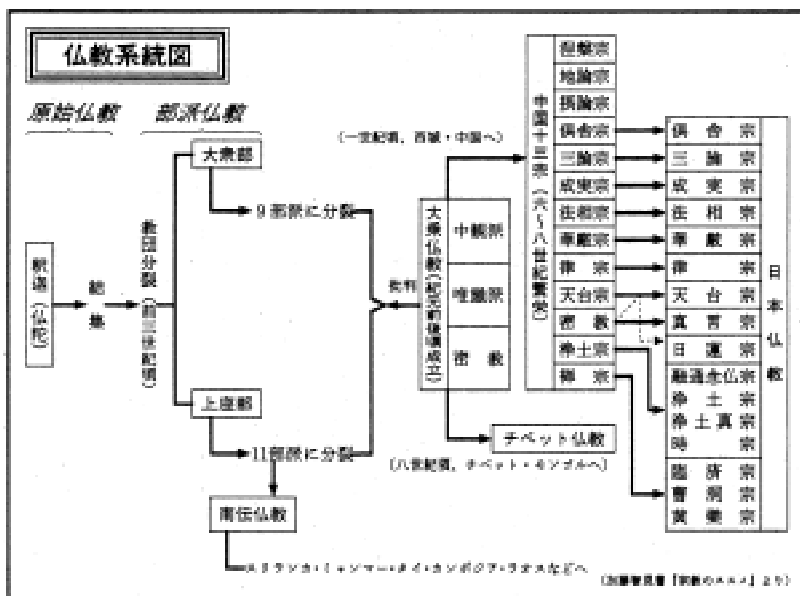
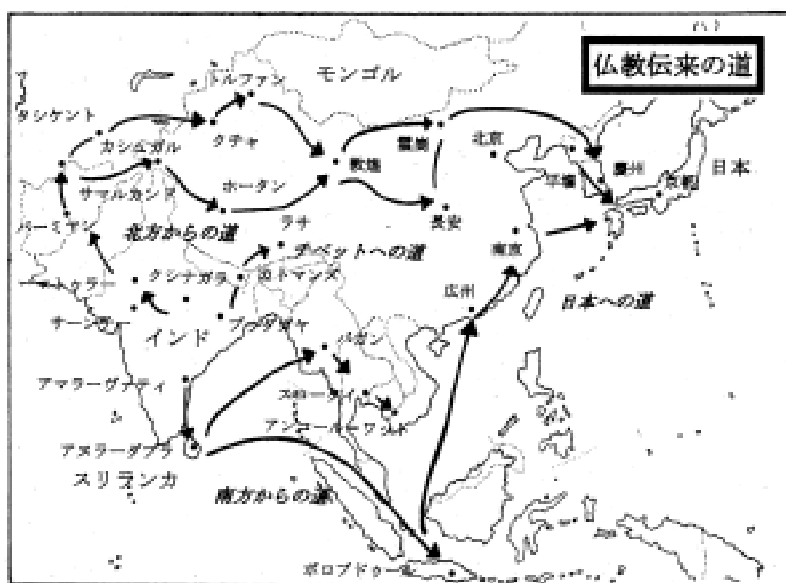
付 録

宗派系統図 29

仏教系大学・短大一覧 34

キーワード集 37

ホームページの使い方 巻末



仏教の流れ

古代インド

インドの歴史は古く、紀元前 2500 ～前 1500 年頃にはインダス河流域に有名なインダス文明が栄えていました。紀元前 1500 年頃今日のインド人の直接の祖先であるアーリヤ人(インド=アーリヤ族)が北西よりインド西北部に侵入し先住民を圧迫し、また同化しながらこの地に定着しました。

アーリヤ人は数多くの神々を崇め、その恩恵を期待したのでした。神々を祭る儀式で、儀式を取り仕切る祭司(バラモン僧)が用いる讃歌や規則などを集めた書物である『**ヴェーダ**』という聖典を編纂しました。紀元前 7・8 世紀頃になると、神々を崇めて恩恵を期待するだけでは満足できず、宇宙の起源は？、人間とは何か？などを哲学的に考える人々が現われ、こうした考察をまとめた『**ウパニシャッド**』と呼ばれる哲学的思索の書が形作られました。現在に至るまでインドの宗教や思想では、『**ヴェーダ**』と『**ウパニシャッド**』の内容を絶対の真理とみなす立場が正統派であり、そうでない立場は非正統派とされてきました。私たちが学ぼうとしている仏教は、非正統派の代表です。

ブッダの時代

紀元前 5・6 世紀になると東西交流が盛んとなり、インド各地で商工業が発達し、いくつもの都市国家が形成されました。そんな時代を背景に、『**ヴェーダ**』や『**ウパニシャッド**』にとらわれず、バラモン階級の権威を否定して、自由な発想をする思想家が輩出しました。

ブッダ(仏陀)もその中の一人だったのです。ブッダ以外に六人の代表的な思想家がいたとされ、仏典では「六師外道(六人の異端思想家)」と呼ん

でいます。今日のインド社会でも大きな勢力を持っているジャイナ教の開祖マハーヴィラ(ジナ)も絶対的な禁欲と不殺生ふせつしやうを主張し、「六師外道」の一人に数え上げられています。

この時代は世界各地で、後世に大きな影響をあたえた偉大な精神的指導者が続々と現われました。中国の孔子(儒教)や老子(道教)、ギリシアのソクラテスやプラトンやアリストテレス、そしてやや遅れてイエス(キリスト教)など、私たちが知っている宗教や哲学の大半が、この時代に誕生したので、精神革命の時代と呼ぶ学者もいます。

仏教は、約 2500 年前(紀元前 5 世紀頃)に修行の末、菩提樹の下で悟りをひらき、ブッダ(覚者=真理を得た人)と尊称されるに至った求道者シャーマンしゃか む に(**釈迦牟尼**=釈迦族の尊者)が、マガダ地方を中心とするガンジス河中流域を遍歴ゆきやう(遊行)して説かれた教えが各地に広まり、やがてそれがアジア全域に伝わり世界宗教として展開していったものです。

この求道者は本名をゴータマ=シッダールタといい、紀元前 5 世紀頃、父シュッドーダナじやうぼんのう(浄飯王)と母マーヤーまや(摩耶)との間にシャカ族の王子としてルンビニー園(現在のネパール南部)で生まれました。伝承によると、生まれてすぐに七歩あるいて「天上天下唯我独尊」といったそうです。

母マーヤーは出産後間もなく亡くなり、その後叔母マハーブラジャーパティーま か は じゃは だい(摩訶波闍波提)に育てられます。そのせいかシッダールタは生まれつき感受性が鋭く、少年の頃から生きとし生けるものが決して避けられない「生・老・病・死しょう ろう びやう し」について、深く考えるところがありました。16 歳でヤショーダラーや しゅだ ら(耶輸陀羅)と結婚し、息子ラーフラら くら(羅睺羅)も生まれましたが、「生老病死」の問題は彼の心を離れませんでした。ついに 29 歳のとき、周囲の猛反対を押し切り、社会的地位も家族も捨て出家したのでした。

以来、7 年間(一説には 6 年間)、最初は有名な二人の仙人に入門し、次いでひとり森や山の中に入り不眠や断食の苦行をつづけました。宗教的な才能に恵まれたシッダールタは、短期間でかなり高い境地を得ますが、それが完全な悟りの境地とは思えなかったのです。山中の苦行を中止して山を下り、ナイルンジャナー川(尼連禪河)のほとりでも苦行を積みましたが、いたずらに肉体を痛めるつける苦行の虚しさに気づきます。そしてスジャータという村娘から乳粥(ヨーグルト)をもらって体力が回復すると、ナイルンジャナー川のほとりの菩提樹の下で瞑想に入ったのです。

悟り

瞑想は 21 日間続きました。そして、ついに完全な悟りの境地に達し(解脱)でブッダとなりました(成道)。これが、仏教の開祖釈尊の誕生であり、釈迦 35 歳の時でした。この悟りを開いた場所をブッダガヤー(仏陀伽耶)といいます。これも伝承によれば、解脱の直後、ブッダは、真理は非常に難解なため他者には伝えられないと考えましたが、梵天の説得もあって思い直し、人々にダルマ(法)を伝えることを始めました。仏教の誕生です。ブッダはマリガダーヴァ(鹿野苑、現在のサールナート)において初めて 5 人の比丘に対して説法を行ってから(初転法輪)、80 歳のクシナガラでの涅槃(入滅=死)に至るまでの 45 年間、ガンジス河の中流域を旅しながら教えを広めつづけました。

ブッダの教えは、一般的には、すべては原因があつて結果があるという「縁起」を発見し、「四諦」(苦・集・滅・道の四つの真理)と「八正道(八聖道)」(解脱に至るために必要な八つの聖なる実践徳目)を弟子たちに説いたといわれます。また仏教修行には、まず基本として、「三学」(修行するものの必ず修めなくてはならない戒・定・慧の三つ)の実践を説きました。

さらにブッダは旧来の身分制度(カースト)を否定し、真理へ道は常に万人に開かれていると説きます。こうした教えは深遠なことはもちろん、当

時としては極めて斬新でもあり、都市に住み商工業に従事する知的水準の高い人々を中心に、仏教は支持者の数を次第に増やしていきました。

部派仏教

その教えは弟子たちに受け継がれ、ブッダの死後 2 ～ 300 年間は口伝^{くでん}だった教えも、記憶違いや誤解を防ぐために、文字で書き記され、仏典が編纂^{けつじゅう}されました(結集)。やがて彼らは僧院の中でブッダの教えを忠実に守り、戒律(規則)どおりの厳しい修行と禁欲の出家生活を送りながら、ブッダの教えの哲学的な分析に全力を注ぎます。しかし仏教が各地に広がると同時に教義の解釈や戒律の実践の相違をめぐる対立が起り保守的な上座部^{じょうざぶ}と革新的な大衆部^{だいしゅうぶ}の二つに大きく分裂(根本分裂)しました。

大衆部は、上座部を閉鎖的な僧院生活に閉じこもり難しい哲学的論議に明け暮れ、大衆の救済を忘れてしていると批判して「小乗仏教」、つまり「〈解脱への〉ちっぽけな乗物」と呼びますが、それはあくまで一方的な言い方にすぎません。根本分裂による大衆部の結成が、後世の大乘仏教の萌芽となりました。

この分析を重んじる仏教をアビダルマ^{あびだつま}(阿毘達磨)仏教といい、見解の異なる 20 の派閥があったので部派仏教ともいわれます。現在、上座部の一部は、スリランカ・ビルマ(ミャンマー)・タイ・カンボジア・ラオスなど東南アジアに伝わり受け継がれています(南伝仏教)。

大乘仏教

大乘仏教は、部派の学説を批判し、紀元前後から比丘の教団とは別に、在家者と釈迦^{しやくか}の墓(仏塔、ストゥーパ)の守護者たちの団体が各地に興りました。彼等は、自分の解脱よりも慈悲の心をもって他者の救済を優先する人間像を理想とし、自分たちをボーディサットヴァ^{ぼだいさつた}(菩提薩埵、略して菩薩^{ぼさつ}。悟りを求めるもの)と呼びました。

またブッダを、人間を越えた超越的存在、つまり絶対神に等しいとみなし、さらに阿弥陀・薬師などを、最高の仏(如来)として崇めるようになりました。そして自らの思想を表現するために、般若経・華嚴経・法華経・浄土系経典をはじめ、膨大な数の大乘経典を生み出しました。理論的な研究も盛んにおこなわれ、とくに「空」という概念が重要視されます。その解明をめぐって、龍樹(ナーガールジュナ)を祖とする中観派と、無著(アサンガ)・世親(ヴァスバンドウ)の兄弟を祖とする唯識派が論争を展開します。

日本、中国、韓国、チベット、ベトナムなどの仏教は、この大乘仏教に属します。

密 教

5・6 世紀頃から商工業が不振になり都市が衰えるにつれ、都市型宗教である仏教は、農村を支持基盤とするヒンドゥー教に押されがちになります。この状況を打開するため、従来の仏教(顕教)が批判してきた儀礼や集団的な陶酔、呪法などの要素を取り込み、かつタントラ教の要素を大乘仏教の考え方に沿って意味づけシステム化する動きが興ってきます。その結果、誕生した神秘的な傾向の強い仏教が密教です。密教は心身に関する理論(即身成仏など)やマンダラを用いる修行法などを開発し、僧院内で顕教と併存しつつ、インドの後期大乘仏教をにないました。密教は、土地の習俗を包含しながら、それぞれの変容をくり返しつつ、中央アジア(シルクロード)からチベット、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。

インド仏教の滅亡

しかしヒンドゥー教の優位はくつがえりませんでした。そして 13 世紀初頭にイスラーム軍の攻撃で最後の拠点だったベンガル地方の僧院が破壊され、イスラーム教の浸透とともにインド仏教は衰退しました。以後、仏教はアジア各地で、

それぞれ独自の展開を遂げることになるのです。

中国仏教

中国に最初に仏教が伝えられたのは文献上では前漢のあいてい哀帝の代、元寿 1(紀元前 2)年とされています。しかし、実際には 2 世紀頃を開かれた天山南路、天山北路などのシルクロードを通して、仏教は中国に伝来したようです。もともと中国には儒教や道教という巨大な精神文明が存在しました。外来の宗教である仏教は、儒教や道教と、ときには対立し、ときには融合しながら、中国仏教という独自の宗教思想を形成していったのです。

後漢の明帝(57 ～ 75 年在位)の頃には、中央の貴族や知識階級に広まりましたが、大きな勢力となることはありませんでした。後漢末から魏・西晋時代になると、インド(天竺)、西域から来朝する僧も多くなり、**サンスクリット**仏典の翻訳も行われ、次第に世間の注目を集めるようになります。三国の呉の支謙し けん、西晋の竺法護じくほうごら優秀な漢訳者に加え、西域から鳩摩羅什く ま らじゅうが入朝し、数多くの経典を翻訳、中国仏教に決定的な方向付けを与えます。また法顕ほっけん、**玄奘**げんじょうなどインドへの求法者も生まれました。

中国仏教の全盛期は隋・唐から宋の時代、つまり 6 世紀から 13 世紀頃です。地論宗じ ろんの菩提流支ぼ だいる し、撰論宗しゅうろんの真諦しんたい、**天台宗**てんだいの智顗ち ぎ、三論宗さんろんの吉蔵きちざう、**華嚴宗**け こんの杜順とじゆん・**法蔵**ほうざう、密教の善無畏ぜんむ い・不空ふ くらう、**法相宗**ほっそうの祖で大翻訳家の**玄奘**など、偉大な人材が次々に現われ、インドの大乗仏教を中国の精神風土に合致するかたちに再構築したのです。

なかでも盛んだったのは**曇鸞**どんらんが開宗した浄土教と**達磨**だるま(**菩提達摩**)によって伝えられた禅宗です。末法思想を背景に、極楽浄土への往生を願って**念仏**ごくらくじょうどを唱える浄土教は、隋・唐時代に道綽どうしゃくや善導ぜんどうにより大成されました。ヨーガ(禅定)ぜんじょうはインドでは瞑想修行の基本でしたが、中国では悟りを直感的に得る宗派として独立し禅宗となりました。禅宗の大成者は唐時代の**慧**え

のう

能とされます。禅宗は儒教と道教の思想や方法論と融合し、中国人の感性に最もあった仏教として、宋以降は中国仏教の代名詞となったのです。

チベット仏教

7 世紀前半にチベットに伝来した仏教は、民族固有宗教のボン教と、対立と融合をくり返ししながら定着します。初期はチベット王国の保護下にありましたが、11 世紀以降は各地の有力氏族と結びついたりしながら、長らく社会の指導的な役割を果たしてきました。12 世紀頃までは在俗の行者も活躍しましたが、やがて僧院に居住する出家者が活動の中心を占めるようになります。14・15 世紀に**プトウン**と**ツォンカパ**が現われて、顕教と密教を理論と実践の両面で統合する壮大なシステムを構築し、15 世紀初頭までにニンマ派・カギュー派・サキャ派・ゲルク派の四大宗派が成立します。まずサキャ派が、次いでゲルク派がモンゴル布教に成功し、その支援を受け、17 世紀にはゲルク派のトップである**ダライ=ラマ**が全チベットを政教両面で統治する制度が確立し、1959 年まで続きます。

チベット仏教は、インドの後期大乘仏教を最も忠実に受け継ぎ、その理論と修行法は極めて緻密かつ実践的です。またチベット語に翻訳された經典と論書は膨大で、しかも正確なことは定評があります。13 世紀頃からチベット大蔵経は幾度も編纂されますが、18 世紀のデルゲ版、ナルタン版、北京版などはインド後期仏教研究にも重要なものです。

なお、チベット仏教が「**ラマ教**」と称されるのは、「ラマ(師)」の尊称を持つ活仏かつぶつを絶対的に帰依する特徴を捉えた俗称で、現在はほとんど使われません。

南伝仏教

インド**上座部**系の仏教が、スリランカ・ミャンマー(ビルマ)・タイ・カンボジア・ラオスなどの東南アジアの国

ぐに伝わり、**南伝仏教**あるいは小乗仏教と総称されています。

南伝仏教は、インドのマウリア朝**アショーカ王**(**阿育王**)の時代(紀元前3世紀中頃)にインドからスリランカに**上座部**系の仏教が伝わったのに由来します。

特徴は、出家者と在家信者とははっきり分かれ、出家者は厳しい修行や戒律を重んじ、人々の尊敬を受けるにふさわしい者(**阿羅漢**)になることを目標に生活を送ります。一方、在家者は僧院を経済的に支え、出家者の宗教的指導を受けて在家の五戒の教えを守り、出家者に供養することによる功德を願うという信仰形態なのです。

朝鮮半島の仏教

朝鮮半島へ仏教が伝来したのは三国時代で、**高句麗**へは372年、**百済**へは384年、**新羅**へは少し遅れて、6世紀に伝来します。三国とも多くの学僧が中国に留学し、仏教の興隆に尽くしました。また、高句麗と百済は日本と親交が深く、百済の**聖明王**が538年に使者を遣わし仏像・仏具・経典を送ったのが日本の仏教公伝とされ、日本仏教の基礎をなしました。

その後、7世紀の統一新羅の仏教は飛躍的に発展して、**元暁**・**義湘**・**円測**らを排出しました。

新羅末期から高麗初期にかけて禅宗が栄え、高麗時代になると仏教が国教として扱われ、**華嚴**の**均如**、**天台**の**諦観**・**義天**、**禅**の**知訥**らが出て朝鮮仏教の独自性が強くなります。そしてこの時期に編纂された高麗大蔵経は朝鮮仏教のシンボルとなったのです。

しかし14世紀末に李朝朝鮮が興ると、儒教を重んじ廃仏政策をとったため、仏教の勢力は次第に衰退していきました。

日本の仏教

仏教伝来

《仏教公伝》わが国に仏教が公式に伝わったのは、百済くだらの聖明王せいめいおうが 538 年、日本の欽明天皇に仏像・仏具・經典きんめいを贈ったことに始まりますが、朝鮮半島を経由して、日本の支配階層の人びとに初めて伝えられた仏教は、インド仏教そのままではなく、中国的な変容を遂げた大乘仏教だったのです。

当時の日本人は仏教の深い思想を理解したわけではなく、仏教を受容した人々は、仏を靈験あらたかな「蕃神ばんしん(外国の神)」として崇めたのです。そのため「国神くにがみ(日本の神)」を崇める人々との間に厳しい対立が生じました。さらにその対立が有力豪族間の権力闘争とからんだ結果、ついに蘇我氏そがを中核とする崇仏派そうぶつはと物部氏もののべを中核とする排仏派はいぶつはとの戦闘に発展します。戦いは崇仏派の勝利に終わり、以後、仏教は、宗教のみならず、政治や文化の分野でも、古代日本を導く基盤となったのです。

飛鳥・白鳳時代

《聖徳太子と仏教》6 世紀後半から 8 世紀初頭にかけて天皇を中心とした国家体制が整い、用明天皇の皇子だった聖徳太子しょうとくたいしは、593(推古 1)年に摂政に就任し、604(推古 12)年に「十七条憲法」を制定し、2 条には、「篤くあつ三宝さんぼうを敬え。……」と、政治倫理の基盤に仏教を据え、とくに仏教信奉を奨励します。『法華經』しょうまんぎょう、『勝鬘經』しょうまんぎょう、『維摩經』ゆいまぎょうを講義し、それらの注釈をまとめて『三經義疏』さんぎょうぎしよを著したとされています(聖徳太子撰述を疑う説もある)。さらに法隆寺・四天王寺し てんのうじなどたくさんの寺院を建立し、日本最初の仏教文化を開花させます。仏教は大陸の最新文化の象徴であり、建築・工芸・医学・文学などの知識や技術が仏教とともに輸入され、中国から帰国した留学僧は、最高の

知的エリートとして、各界を指導する立場についてのです。

奈良時代

《奈良仏教》701(大宝 1)年、奈良に平城京が建設され、
仏教を基軸とする天平文化が花開きました。とくに聖武^{しょうむ}
天皇は『華嚴經^{けごんきやう}』が説く「共栄」の考え方を国家建設の基本にすえ、全国
各地に国分寺を、平城京に東大寺を建立し、その本尊として巨大な盧舎那^{ろしやな}
仏^{ぶつ}を造立しました。平城京には大規模な官立寺院がいくつも建立され、そ
こでは国家に認定された僧侶たちが仏教の学問的研究にいそしんでいま
した。法相宗^{ほっそう}・三論宗^{さんろん}・俱舍宗^{くしゃ}・成実宗^{じやうじつ}・華嚴宗^{けごん}・律宗^{りつ}の6宗派は南都六宗^{なんとろくしゅう}
と呼ばれ、鎮護国家的性格を有していました。なお、今日まで伝承されて
いるのは法相宗・華嚴宗・律宗の3宗です。

法相宗^{ほっそう}は、7世紀の唐時代に玄奘^{げんしょう}が国禁を破って天竺^{てんじく}から請来した仏典
により体系がもたらされ、その唯識^{じおん}思想を元に弟子の慈恩大師基^きが中国に
法相宗^{にっぽう}を開宗しました。日本へは入唐僧道昭^{どうしょう}が653(白雉 4)年に帰国後こ
れを広めたのをはじめとして入唐求法僧により数次にわたって伝えられま
した。現在は興福寺^{こうふくじ}・薬師寺^{やくしじ}の2山が本山として統括しています。

華嚴宗^{けごん}は、中国唐代初期に法蔵^{ほうざう}が『華嚴經』に基づき、その思想を拠
所として独自の教学体系を立てた学派です。わが国における華嚴宗^{しんじやう}は、
7世紀に新羅に伝えられた朝鮮華嚴教学を、当地に留学した審祥^{しんじやう}によって
736(天平 8)年に伝えられました。東大寺を大本山とし、752(天平勝宝 4)
年、『華嚴經』の教主たる毘盧遮那仏をかたどる大仏が建立され、この東
大寺を総国分寺とする国分寺の組織も整備されたのです。今日も華嚴教学
を研究する学派として続いています。

律宗^{りつ}は、唐から道宣^{どうせん}の流れをくむ鑑真^{がんじん}が754(天平勝宝 6)年に来朝し、
東大寺に国立の戒壇を設立して、授戒の制を確立しました。また、戒律の
根本道場として開創した唐招提寺^{とうしょうだいじ}を総本山として、今に律宗^{りつ}を伝えていま

す。ただし、鎌倉時代になると覚盛^{かくじょう}と奈良^{さいだいじ}の西大寺に住む叡尊^{えいそん}との間に見解の相違が生じ、現在では、こちらは西大寺を総本山^{しんごんりつしゅう}に真言律宗として分派しています。

他方、国家主導の仏教とは別に、民間にも仏教が広まっていきました。その指導者は私度僧^{しどそう}(私的に出家した僧)が多く、**行基**^{ぎょうき}のように、国家が無視できないほど民衆に支持される者も現われ、民間レベルでも仏教は日本在来の宗教(原始神道)と交渉を深め、両者の融合(神仏習合^{しんぶつしゅうごう})から山岳仏教(修験道^{しゅげんどう})が芽吹きました。以後、仏教は都市と山岳の二つの場に展開していきます。

奈良時代の末期、道鏡^{どうきょう}のように、僧侶が政治に介入し混乱する事態が生じました。その反省から桓武天皇^{かんむ}は仏教と政治の距離を置く政策をすすめ、仏教が強い平城京から京都の平安京に遷都を実現したのです。

平安時代

《最澄と空海》平安遷都(794 年)をきっかけに**最澄**^{さいちょう}と**空海**^{くうかい}が登場し、日本仏教は新たな段階に達します。彼らは若い頃、自然の中で修行したのち中国に留学するという体験を共有し、最新最高の中国仏教を、日本の実状にあわせて変容させつつ導入する独創的な作業を試みます。その方策がたとえば、神と仏の関係を調和させる「神仏習合」であり、仏教によって国家を守護する「鎮護国家」だったのです。日本仏教の進む方向を決定した二大巨人といってもいいでしょう。

《天台宗》**最澄**^{さいちょう}は、東大寺で受戒後の 788(延暦 7)年比叡山^{ひえいざん}に創建した一乗止観院(後の延暦寺根本中堂)に籠り天台学を志し、804(延暦 23)年に入唐して天台^{とうざい}山で道邃^{ぎょうまん}や行満^{ちぎ}から隋の**智顗**^{ちぎ}の大成した法華信仰を中核とする天台教学を究め、ついで順曉^{じゆんぎょう}から密教を、さらに脩然^{しゆくねん}から禅を、道邃から菩薩戒を受けて翌年帰朝し、円(天台教学)・密・禅・戒の四宗を総合する

天台法華宗(天台宗)を開創し、比叡山を拠点に精力的に活動をくり広げました。806(延暦 25)年南都六宗に加えて新たに天台宗にも 2 名の年分度者(国家が認める僧侶)が認可されました(これをもって天台宗では立教開宗としています)。最澄は、817(弘仁 8)年頃から法相宗の徳一との間に天台と法相の教学論争や三一権実論争を起し『守護国界章』などを著しました。また、大乘戒壇の設立と法華一乗による人材の養成を目指して『山家学生式』『顕戒論』を朝廷に上申し、没後に勅許があり、大乘菩薩戒が主流となったのです。

天台宗はもとより密教を含んでいましたが、最澄は密教の充実を図ろうと真言宗の空海に教えを受け、後継者の円仁・円珍の入唐求法でより密教は充実し、そして安然により「台密」(天台密教)が大成されます。さらに浄土教をも飲み込みます。その結果、比叡山は日本仏教にとって、総合仏教大学の役割を果たすことになり、法然・親鸞・道元・日蓮・一遍など、いわゆる鎌倉新仏教の祖師たちなど多くの僧侶を輩出しました。

10 世紀末に円仁の流れをくむ 18 世天台座主良源は天台宗を中興しましたが、密教の理解についての円仁と円珍以来の対立は深まり、良源没後、円珍の門徒は比叡山を追われて園城寺(三井寺)に移りました。以後、比叡山を山門派、園城寺を寺門派と称してこの対立は後世まで続きます。なお、良源門下には、恵心流の祖といわれ『往生要集』を著した源信と檀那流の祖覚運などがいます。室町時代には、源信に傾倒した真盛が戒称(戒律と念仏)二門の教えを成立させ真盛派が派生します。

比叡山はその後、1571(元龜 2)年織田信長の焼き討ちにより全山焼失しおとろえますが、江戸時代になって、徳川家康の懐刀と云われた天海の出現によってその勢力を盛り返し、西の比叡山に対して上野に東叡山寛永寺を開き、その影響力を日本全土に及ぼしました。

明治維新の後、寺領没収などがありましたが、現在は各派が独立し、比

叡山延暦寺を総本山とする**天台宗**のほかに、園城寺の天台寺門宗、西教寺の天台真盛宗、大阪四天王寺の和宗、東京浅草寺の聖観音宗などが成立しています。

《真言宗》**空海**は、**最澄**以上に在来の民間宗教的な環境から出発し、仏教を志し、各地で厳しい修行を重ね、出家宣言の書といわれる『**三教指帰**』を著し、やがて東大寺で受戒します。そして大和国(奈良県)久米寺で『**大日経**』を発見し密教に深い関心を抱き、804(延暦 23)年遣唐使とともに唐に渡り青龍寺の恵果に師事して密教を学びますが、師の死去により翌 806(大同 1)年多数の經典・法具などを携えて帰国し、京都の高雄山寺(神護寺)で**天台宗**の**最澄**とその弟子たちに灌頂を受け、嵯峨天皇より 816(弘仁 7)年に高野山開創の勅許を得、また 823(弘仁 14)年に東寺(京都、教王護国寺)を賜り両所を拠点に**真言宗**を立宗しました。**マンドラ**(**曼荼羅**)の理論を駆使した壮大な宗教体系の構築と、たぐいまれな霊力の行使により、中国から導入した密教の日本化に成功したのです。なお、**天台宗**の密教を「**台密**」というのに対し、東寺を密教の根本道場として展開したので「**東密**」といいます。また、**空海**は能筆家としても知られ、嵯峨天皇・橘逸勢と共に三筆のひとりに数えられています。

真言宗は**空海**没後も平安時代を通じて栄え、実慧・真済・真雅・真如といった高僧が多くでて、**真言宗**の発展につとめました。

しかし、鎌倉時代になると、宗風が活力を失いつつある状況を憂い、急進的改革をめざした中興の祖**覚鑊**が高野山や東寺と対立して根来山を本拠とすると、新義真言宗(**覚鑊**の解釈教学を元とした新たな教義)と従来からの古義真言宗(**空海**の直系的教義)の2つに大きく分れました。さらにそこから多種多様な教義が展開して分裂をくり返し、現在では、古義真言宗は高野山真言宗(和歌山県、金剛峯寺)をはじめとして、東寺真言宗(教王護

国寺)・醍醐派(醍醐寺)・御室派(仁和寺)・大覚寺派(大覚寺)・山階派(勸修寺)・泉涌寺派(泉涌寺)・善通寺派(香川県、善通寺)・真言律宗(奈良県、西大寺)などがあり、新義真言宗には豊山派(奈良県、長谷寺)・智山派(智積院)・新義真言宗(和歌山県、根来寺)の3派があります。

《修験者・聖・行者》古代から中世を経て近世に至るまで、民衆仏教の最前線を支えたのは無名の仏教者たちでした。仏教と神道が融合した山岳仏教を担った修験者(山伏)、浄土信仰を広めた念仏聖、法華信仰を広めた法華経行者などの人々こそ、病気治療や死者葬送といった民衆の切実な願いをかなえてくれる重要な存在だったのです。

《末法思想と浄土教》平安中期以降、社会不安の増大とともに、破滅と暗黒の時代の到来を説く「末法思想」が流行し、極楽浄土への往生を願って阿弥陀如来を信仰する浄土教信仰が一世を風靡しました。中でも源信は『往生要集』を書いて浄土教の方向を決定づけ、貴族層や知識人に広めました。一方、同時代の空也は、庶民の間に念仏や和讃を唱え、鉢を叩き鉦を鳴らして諸国を遊行するという踊躍念仏(踊念仏)を始めます。これは後に一遍智真によって時宗の間に引き継がれます。また良忍は、念仏三昧中に自他の念仏が相互に力を及ぼしあって浄土に往生するという「自他融通の念仏」を阿弥陀如来より感受して諸国を教化し、「融通念仏宗」を開き、現在の大阪市平野区の大念仏寺を根本道場としました。このような浄土念仏は後世に多大の影響を与え、鎌倉時代にはその教えを深めた信仰運動が一大改革を起します。

鎌倉時代

《鎌倉新仏教》末法思想の影響は、貴族層にとどまらず、武士(殺人を職とするため嫌われた)や民衆にまで及びま

した。この動向の中から、武士や民衆の救済をめざす仏教が誕生したので
す。その開祖(祖師)たちが鎌倉時代に活躍したので「鎌倉新仏教」と総称
されます。彼らは、浄土教・禅宗・法華信仰という、性格の異なる三つの
領域から出現しましたが、^{ねんぶつ}念仏・^{ざ ぜん}坐禅・^{だいもく}題目という、一つの宗教的行為の
実践だけで救済は可能になると主張した点、および身分的には国家の保護
を一切受けない僧侶だった点で共通しています。

《浄土教》人々の信仰を最も多く集めた浄土教の流れからは、三人の開祖
が現われた。

〔浄土宗〕^{ほうねん}法然は初め比叡山に上り、次に南都に遊学し、諸宗の奥義を極
めたが満足できず、唐の善導^{ぜんどう}の著した『観無量寿経疏』(観經疏)^{かんむりようじゆきようしよ}の中に
「南無阿弥陀仏」^{な む あ み だ ぶつ}と唱える^{ねんぶつ}念仏のみで浄土に往生できるという専修念仏の
確信を得ます。1175(承安 5)年に東山の吉水^{よしみず}に移り、そして「浄土三部
経」と呼ぶ『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の経文を引用し、それ
に対する善導の解釈を引き、さらに法然自身の考えを述べた『^{せんちやくほんがんにん}選択本願
^{ぶつしゆう}仏集』(選択集)を 1198(建久 9)年に著して浄土宗を開創します。この専ら
^{いぎよう}念仏の易行のみを修する他力易行としての^{ねんぶつ}念仏は、当時の民衆に大きな影
響を与え、貴賤に広く支持されます。従来の諸宗は伝統的な仏教を否定す
るものとして反発し、朝廷に^{ねんぶつ}念仏停止の令を発するように働きかけ、結局、
1207(建永 2・承元 1)年の^{ねんぶつ}念仏停止によって、門弟 4 名が死罪、法然は土
佐(実は讃岐)流罪に処せられ、高弟 7 名も各地に流罪に処せられました。

法然の没後、弟子によって浄土宗^{べんちよう ちんぜい}は弁長の鎮西流、証空^{しょうくう}の西山流、隆寛^{りゅうかん}
の長樂寺流、長西^{ちようさい}の九品寺流、幸西^{こうさい}の一念義の 5 派に分れますが、現在は
鎮西派と西山派の 2 派が残っています。鎮西派は、法然の高弟で九州地方
で活躍した弁長^{りようちゆう}の鎮西流を、弟子の良忠が主に関東を中心に伝道し、その
門下からさらに全国に広まり、知恩院^{ち おんいん}を総本山とする浄土宗本流となりま

す。一方、西山派は、**法然**の高弟の証空^{しょうくう}が京都西山を拠点として**念仏**を広め、現在は西山 3 派として、西山浄土宗^{あ お}(粟生光明寺)・浄土宗西山禅林寺派^{ふかくさ}(禅林寺)・浄土宗深草派(誓願寺)に分れています。

〔浄土真宗〕**法然**の弟子で**浄土真宗**の開祖**親鸞**^{しんらん}は、初め比叡山で修学に励んだが悩みを解決できず、1201(建仁 1)年に**聖徳太子**の創建された京都六角堂に参籠し、そこで**聖徳太子**の夢告を得て**法然**の下に参じ、**法然**の**他力本願**の教えをよりいっそう徹底して究めます。1207(建永 2・承元 1)年の**念仏**弾圧で**法然**が四国流罪されたときには連座して越後流罪に処せられましたが、1211(建暦 1)年赦免になり、その後、阿弥陀如来に帰依^{き へ}する以外の行為は全く必要ないとする絶対他力の教えを関東地方に広め、この浄土門の真実の教えを『**教行信証**』^{きょうぎょうしんしやう}として著し死ぬまで加筆訂正しました。**浄土真宗**ではこの書を立教開宗の根本聖典としています。**親鸞**は晩年には東山大谷の地に念仏道場を設けて京都に帰りましたが、手紙(消息)により関東の門弟を指導し続けました。

はじめ単に**真宗**と呼称され、一般には**一向宗**^{いっこうしゅう}と呼ばれた**浄土真宗**は、**親鸞**の関東布教中に、下野(栃木県)高田に如来堂(下野本寺専修寺)を建立して門弟真仏^{しんぶつ}を配し、ここを中心に集まった信徒を高田門徒といったのが真宗高田派(現在は、三重県津市の専修寺を本山としている)で、初期真宗教団の主流をなします。**親鸞**の亡くなった後に、覚信尼^{かくしんに}(**親鸞**の娘)が東山大谷に廟堂を建てて**親鸞**の遺骨を納め、そして**親鸞**の曾孫 3 代覚如^{かくにょ}の時に「本願寺」の寺号を称します。8 世蓮如^{れんにょ}の頃には、活発に布教活動を展開し、今日の大教団の基礎を築きます。この間、延暦寺衆徒や法華宗徒により本願寺を破却され、越前(福井県)吉崎に堂舎を建て、北陸に広まった本願寺門徒は一向一揆を起し、やがて織田信長と「石山合戦」をくり広げ、京都山科・大坂石山と本願寺を移していきました。

織田信長の死後、豊臣秀吉は本願寺 11 世顕如^{けんによ}に京都西六条の現在地(京

都市下京区堀川通)を与え、1591(天正 19)年に御影堂ご えいどうと阿弥陀堂が再建されます。顕如没後、顕如の子教如きょうによと准如じゆんによが本願寺の継承をめぐって対立し、弟の准如が後継の門主となったのに対して、1602(慶長 7)年に徳川家康が教如にも現在地の東六条(京都市下京区烏丸通)に寺地を与え、これによって1619(元和 5)年頃には浄土真宗大谷派(東本願寺)を別立します。以後、准如が継承した本願寺を浄土真宗本願寺派(西本願寺)と称し、本願寺門徒は東西に分かれて所属することになるのです。

その他に、真宗仏光寺派(本山仏光寺、京都市下京区高倉通)・真宗興正派(本山興正寺、京都市下京区堀川通)・真宗三門徒派(本山専照寺、福井市)・真宗出雲路派(本山毫撰寺ごうせつじ、福井県武生市)・真宗山元派(本山証誠寺、福井県鯖江市)・真宗誠照寺派(本山誠照寺、福井県鯖江市)・真宗木辺派(本山錦織寺きんしよくじ、滋賀県野洲郡)を加えて**真宗 10 派**といいます。

〔時 宗〕**時宗**(遊行宗)の開祖**一遍智真**いつぺんち しんは、**法然**の孫弟子として知られる聖達しょうたつ(浄土宗西山派の祖証空門下しょうくう)の弟子で**浄土宗**を学びましたが、父の死をきっかけに還俗げんぞくしました。しかし、親族の葛藤を知り、再び出家して各地を転々としながら修行に励み、ついに 1274(文永 11)年紀伊の熊野本宮くまの ほんぐうに参籠したときに、阿弥陀如来の垂迹身すいじゃくしんとされる熊野権現ごんげんから衆生済度しゅじょうさいどのため阿弥陀如来の名号を記した札ふだを配れとの神勅を受けます(**時宗**では後にこのときを開宗とします)。そして民衆にたった一回**念仏**を唱えるだけでも浄土に往生できると説き、最後には著作活動すら放棄し没するまで賦算ふさん(**念仏**の札をくばること)と**踊念仏**で諸国遊行を続けました。**一遍**没後は、弟子の真教が遊行を引き継ぐとともに、各地に道場を設けていき教団の基礎を固め、以来歴代の遊行上人かんじんも全国を遊行し、念仏勧進や賦算を行いました。4 世遊行上人どんかい吞海が 1325(正中 2)年藤沢に清浄光寺(遊行寺)しょうじょうこうじを建て、5 世安国の時に総本山とします。室町時代中期に全盛期を迎えますが、多数の念仏行者を率いて遊行を続けることは、さまざまな困難を伴いました。

初め「時衆」と称していましたが、江戸時代には「**時宗**」として公認され今日に至っています。

《**禅 宗**》日本に伝えられた禅宗は、**慧能**^{え のう}が開いた南宗禅^{なんしゅうぜん}が正統とされた宋朝禅でした。最初に伝えたのは**明庵栄西**^{みょうあんえいさい}でした。**栄西**は鎌倉初期に入宋して臨済宗黄龍派^{りんぜいしゅう}の禅を伝え、つづいて円爾弁円^{えんに べんえん}が楊岐派^{ようぎ}を伝えます。なお、**栄西**は中国から茶種を持ち帰って日本に広めるなど中国文化の紹介者でもありました。**希玄道元**^{き げんどうげん}も、入宋して中国曹洞禅を日本に伝えました。

〔臨済宗〕唐代の禅僧**臨済義玄**^{りんざいぎ げん}を開祖とする宗派で、**栄西**は宋より臨済宗黄龍派^{こうぜんご ころん}を伝え、『**興禅護国論**』により禅の本旨を著し鎌倉幕府の帰依を受けて京都に建仁寺を開きます。坐禅による悟りと厳しい戒律を説く禅風は、主に武士の間に好まれたことから、鎌倉や京都などに多くの禅寺が建てられました。現在に伝わる**臨済宗**各派のほとんどは、中国に於いて元が宋を滅ぼした影響などもあって、鎌倉末期から室町期に宋から多数の禅僧が来朝して伝えました。室町時代にはいと、京都や鎌倉を中心として大いに**栄え**^{む そうそ せき}、**夢窓疎石**^{しゅうほうみゆうちよう}や宗 峰^{ぎどうしゅうしん} 妙超^{ぜっかいちゅうしん}といった弟子を出し、義堂周信・絶海中津といった五山文学で活躍した名僧を輩出しました。また、禅宗の寺格をさだめた五山十刹の制度も、義堂の意見にしたがって足利義満が整えます。さらに江戸時代中期に出た**白隠慧鶴**^{はくいんえ かく}によって師から弟子への悟りの伝達を重んじる**公案**体系がまとめられ、**臨済宗**中興の祖としてこの**白隠**^{あしかがよしみつ}の法を受け継いでいます。

現在の**臨済宗**には、建仁寺派^{けんにんじ}(京都市東山区)・建長寺派^{けんちやうじ}(神奈川県鎌倉市)・東福寺派^{とうふくじ}(京都市東山区)・円覚寺派^{えんがくじ}(神奈川県鎌倉市)・南禅寺派^{なんぜんじ}(京都市左京区)・大徳寺派^{だいとくじ}(京都市北区)・妙心寺派^{みょうしんじ}(京都市右京区)・天龍寺派^{てんりゅうじ}(京都市右京区)・永源寺派^{えいげんじ}(滋賀県神崎郡)・向嶽寺派^{こうがくじ}(山梨県塩山市)・相国寺派^{しょうこくじ}(京都市上京区)・方広寺派^{ほうこうじ}(静岡県引佐郡)・仏通寺派^{ぶつづうじ}(広島県三

原市)・国泰寺派(富山県高岡市)の各派があり、**臨済宗** 14 派といます。

〔曹洞宗〕鎌倉時代のもうひとつの代表的な禅宗である**曹洞宗**は、**希玄道元**から始まります。**道元**は、比叡山で得度し、ついで建仁寺を訪ね、**栄西**・**明全**について禅を学び、1223(貞応 2)年明全に従って入宋して禅匠を歴訪し、ついに天童山で如浄に出会い師事し、中国曹洞禅の禅風を受けて1227(安貞 1)年に帰国します。帰朝後、直ちに『**普勸坐禅儀**』を選述し、一時建仁寺に住しますが、1233(天福 1)年に宇治の興聖寺を開き、曹洞禅の宣揚と『**正法眼蔵**』の撰述につとめました。しかし、比叡山の圧迫を受けたり、幕府にも受け入れられなかったりしたため、1244(寛文 2)年に越前(福井県)に大仏寺(寛文 4 年に永平寺と改める)を開き、より純粹に禅を追求(**只管打坐**)し、『**正法眼蔵**』の改稿と継承者の養成に心血を注ぎました。その門下には勝れた弟子が出て、4 世**瑩山紹瑾**に至って能登(石川県)に総持寺を開創し、地方豪族や一般民衆に広め、現在の大教団の基礎を築きました。総持寺は明治に入って火災に遭い 1898(明治 31)年神奈川県横浜市鶴見に移り、福井の永平寺との二大本山制をとり、**道元**を**高祖**、**瑩山**を**太祖**として二人の宗祖をたてています。

《法華信仰》**日蓮宗**の開祖、**日蓮**は 16 歳で出家し、その後、比叡山に学び天台教学のみならず、密教・浄土教などを学びますが、次第に法華信仰を深くしていきます。

〔日蓮宗〕1253(建長 5)年 32 歳の時、比叡山を下って故郷の清澄寺で初めて「南無妙法蓮華經」と**題目**を唱えたとされ、**日蓮宗**ではそれをもって立教開宗としています。以後、**日蓮**は『**法華經**』こそが釈尊の悟りのすべで、最高の仏教と主張し「南無妙法蓮華經」と**題目**を唱えれば、救済は約束されると、『**法華經**』の功德を説きます。また、**日蓮**は度重なる弾圧を信仰の糧とし、政治にも他宗教にも容赦ない激烈な批判を加えていきます。

^{りっしょうあんこくろん}『立正安国論』を北条時頼に献上し、その中で、天災飢饉や社会不安が盛んに起るのは**法然**の浄土**念仏**のせいだとして**念仏**の停止を求め、もし幕府がこのまま**念仏**を認めているならば亡国の難や他国の侵略を受けると警告しました。これが幕府や既成宗教の怒りをかい、たびたび迫害や弾圧にあり、ついに 1271(文永 8)年佐渡流罪となります。この流罪期間に著された^{かいもくしょう}『開目抄』^{かんじんほんぞんしょう}『観心本尊抄』に前書を加え「日蓮三大部」といわれています。

日蓮は、死期が近いと悟り、後事を 6 老僧に託します。彼らは関東及びその周辺でそれぞれ門流を形成し、**日蓮**の 13 回忌の年から関西進出が試みられ、室町時代には京都を中心に定着し隆盛を極めますが、布教の活性化に伴って『**法華経**』解釈などについて門流内に対立が生じ、教団の分派が起ります。江戸時代になると、幕府の政策による本末制度や檀家制度のもとに一致派と勝劣派との二つに大別されます。なお、旧来の伝統を守って折伏的態度をとる不受布施派は、禁圧されて地下に潜行し秘密教団を形成しました。

現在、日蓮系の教団は、身延山を祖山とし、池上本門寺に宗務院を置く**日蓮宗**を初め、顕本法華宗・法華宗(本門流・陣門流・真門流)・本門法華宗などの宗派があり、また、在家仏教運動も盛んになるなど、日蓮法華信仰の新宗教教団も組織されています。

《**旧仏教の改革運動**》鎌倉時代の既存の仏教(旧仏教)は新仏教に対する抵抗勢力と見られていますが、旧仏教にも新仏教から刺激を受けて新たな展開がありました。奈良の^{さいだいじ}西大寺を本山とする新義律宗(真言律宗)の宗祖^{えいぞん}叡尊と弟子の^{にんしょう}忍性は、鎌倉新仏教にありがちな戒律軽視を批判し、国家の保護下から脱して自立した教団を率い、**空海**を高祖として、密教と戒律を実修しながら民衆の救済を実践しました。彼らの運動は具体的かつ組織的で、病人・被差別者・女性の救済において、世界史的にも特筆されるほど

の社会事業の実績をあげます。その他にも、梅尾とがのおに高山寺こうざんじを建てて華嚴の道場とした明恵みょうえ、華嚴宗の復興に尽力した宗性そうしやう、その弟子で『八宗綱要』はっしやうかうようを著した凝然せんにゆうじ、泉涌寺に住して戒律の復興に尽くした俊苧しゆんじやうなどが旧仏教の復興に努めました。

室町・安土桃山時代

《禅と日本文化》鎌倉末から室町時代に入ると幕府も京都に移り、禅宗は貴族文化および武士文化と融合して全盛期を迎えます。足利尊氏あしかがたかうじは、鎌倉幕府にならって寺社興隆を政策とし、室町幕府は足利氏が帰依していた臨済宗を中心とした仏教政策をとり、足利義満ござんじつせつは五山十刹の制を整えます。こうして禅は政権を握る上級武士層にとって不可欠の教養となり、これらの室町文化は、仏教に影響され芸能や美術・建築・文学・茶道や華道など日本文化の源泉ともなりました。これとは対照的に、曹洞宗は、地方の大名や農民を教化し、永平寺と総持寺を両本山として強力な地盤を築いていきました。

しかし、室町後期の応仁の乱などの動乱が増え始め、仏教教団に強い打撃を与えることとなり、それは安土桃山時代まで続くことになります。

《新仏教の定着》鎌倉時代の新仏教が、禅宗に限らず全国的に教団として発展したのもこの時代になります。臨済宗や律僧は室町幕府に公認・保護されて「官僧」と化したことにより、地方豪族や一般民衆との関係が薄くなり、そのため浄土教や日蓮法華宗がこれらの人々に浸透・密着していきました。浄土宗は、鎮西派が鎌倉を中心に関東を伝道し、さらに全国に伸張させて浄土宗本流となります。一方、西山派は、京都西山を拠点として勢力を伸ばして浄土教信仰に大きな影響を与えました。時宗は、遊行と賦算で民衆に広まり、また陣僧として武士とも結びついて信仰を広め、踊念仏から民間芸能への進出も見られ、その最盛期を迎えます。真宗は、親鸞

の廟堂を中心に教団を統括しようとしたが失敗し、地方に教団が分立します。**日蓮宗**は、南関東を中心に展開していましたが関西に進出し、とくに京都の**日蓮宗**は、町衆を信者としてこれを組織し、一向一揆の乱入を防ぐために強大な勢力を誇るようになりました(法華一揆)が、1536(天文 5)年比叡山を中心とする新旧仏教教団と戦って壊滅します(天文法華の乱)。

《戦乱期の仏教》室町後期、あらゆる秩序が崩壊する状況の中で、**親鸞**の血を引く 8 世^{れんによ}**蓮如**^{お ふみ ごぶんしょう}は『御文(御文章)』などによって近江(滋賀県)・北陸地方に精力的に布教活動を行い、**浄土真宗**の組織化に成功し、本願寺を頂点とする強大な教団を築き上げました。日本史上、最大最強の宗教組織となった**浄土真宗**は^{いっこう}**一向宗**とも呼ばれ、この間、延暦寺衆徒により大谷本願寺を破却され、越前(福井県)吉崎に堂舎を建て、越前をはじめ各地で自治を求めて門徒と呼ばれる信徒集団とともに一向一揆を起します。戦国大名をしのぐ政治＝軍事力を持ち、やがて織田信長と「石山合戦」をくり広げ、信長らの天下統一すら長らく阻止することになります。しかし、信長の徹底的な弾圧や法華宗徒による法華一揆のために京都山科・大坂石山本願寺などが制圧され一向一揆は沈静化します。信長の死後、豊臣秀吉は 11 世^{けんによ}**顕如**に京都西六条(京都市下京区堀川通)の地を与え、石山本願寺跡には大坂城を立てるなど、寺院勢力との中を良好にしようとしてしました。

江戸時代

《江戸時代の宗教政策》戦乱を收拾した徳川政権は、勢力をふるった仏教教団を統制するために、1601(慶長 6)年高野山法度を皮切りに厳格な統制政策を次々と実施し、1665(寛文 5)年諸宗派統一の諸宗寺院法度の発布によって一応の完成を見ます。

寺院法度の制定によって統制された仏教教団を寺院末寺帳の作成によって本寺と末寺の関係を固定化させ、教団と僧侶を監視することで権力が集

中することを防ぐために敷いた制度が本末制度です。1745(延享 2)年頃に確立した本末制度と共に、幕府の命令を各寺院に伝達する役割をさせるふれ触頭がしら寺院を作りました。

さらに、民衆への統制に用いられたのが寺請制度と宗門改てらうけです。寺請制度は、キリスト教などの布教を禁じるために 1635(寛永 12)年頃に成立し、切支丹きりし たんでないことを寺院から身分証明書を受けるものです。1637(寛永 14)年に勃発した島原の乱を契機に、キリシタン禁制を中心とする宗教・民衆統制策を一段と推進させることになります。いわゆる「隠れ切支丹」の取り締りとして 1640(寛永 17)年に宗門改役が置かれ、その後諸藩にも設置を命じました。そして 1671(寛文 11)年宗門人別帳(後に戸籍の役割を果たす)作成も命じます。

幕府は、1635(寛永 12)年に職制として将軍直属の寺社奉行を設置し、これらの宗教行政を統括します。その結果、寺檀制度・檀家制度が形成され、仏教教団は安定した経済力を得た反面、以前の活力を失った骨抜きの状態になってしまいました。

しかし、教団の経済基盤の安定によって、檀林・学林という教育・研究機関が設置され、優れた高僧も現われ、学問的にも高い水準に達します。仏教が日本全土に普及したのは実は江戸時代ともいわれ、日本人の価値観や死生観が江戸時代の仏教によって形成された可能性は無視できないようです。また、明から来日したいんげんりゅうき隠元隆琦らが明朝風の禅を伝え、最新の中国の学問や文化をもたらしました。

〔黄檗宗〕江戸時代初期の 1654(承応 3)年に明末の乱を避け、中国から長崎興福寺の逸然性融いつねんしょうゆうに招聘された隠元が長崎興福寺に入ります。その後、京都宇治に、徳川家綱が檀越いえつな だんのつとなり、隠元を開山として 1661(寛文 1)年より工事を始め、1668(寛文 8)年にすべて中国明代の建築様式(黄檗様おうばくよう)になる伽藍を完成します。山号寺号は隠元が住持していた中国の黄檗山万福寺まんぶくじ

を踏襲します。黄檗宗は、中国では臨済宗に含まれるとされますが、寺制や内規が明朝風の禅で日本の臨済宗と異なったため、独立して臨済系の一宗となりました。開祖隠元の没後、14 世までは代々中国僧で継承しますが、14 世に日本人僧の龍統元棟りゅうとうげんとうが初めて住持となり興隆をはかりました。その近世中国の学問や文化を伝える宗風は、日本の仏教界や文化に大きな影響を与えました。1874(明治 7)年に政府は禅宗を曹洞宗と臨済宗の 2 宗としたため臨済宗に所属しましたが、1876 年に再び独立し現在に至っています。

近・現代

《近代化と仏教》大政奉還により、維新政府が国家神道により天皇の権威を確立することを意図した神仏分離令を実施すると、その影響で鎌倉新仏教系を除く日本仏教の大半は廃仏毀釈はいぶつきしゃくなどで衰退します。これに対して、仏教を守る運動が島地黙雷しまじ もくらいらによって起され、廃仏の方針が緩められます。こうした中で、仏教界は教団運営の近代化に取り組み諸改革を行っていきます。浄土真宗きよづまんとしは清沢満之などの努力により近代化にかなり成功し、日本人の精神的な糧かてとなることができました。また禅宗は知識人を中心に信奉者を集めただけでなく、鈴木大拙すずき だいせつらによって欧米に輸出され、東洋精神の象徴として世界的な評価を得ます。昭和に入り、世界大戦が勃発し、社会全体に国粹主義的な動向が強くなり、仏教界もその嵐に巻き込まれ軍隊などに協力するようになりました。敗戦後は、戦争協力を反省するとともに、平和運動の先頭に立つ活動も現われ、日本仏教再生に踏み出すこととなります。

宗派系統図

天台系教団

天台宗

天台寺門宗

- 天台宗
 - (大津市・延暦寺)
 - 浄土真宗遣迎院派
 - (京都市・遣迎院)
 - 金峯山修験本宗
 - (奈良県・金峯山寺)
 - 鞍馬弘教
 - (京都市・鞍馬寺)
 - 円浄宗
 - (京都市・蘆山寺)
 - 和宗
 - (大阪市・四天王寺)
 - 妙見宗
 - (大阪府・本滝寺)
 - 尾張高野山
 - (愛知県・岩屋寺)
 - 粉河観音宗
 - (和歌山県・粉河寺)
 - 修験道
 - (倉敷市・五流尊滝院)
 - 大和宗
 - (岩手県・大乘寺)
 - 西山宗
 - (京都市・三鈷寺)
 - 聖観音宗
 - (台東区・浅草寺)
 - 念法真教
 - (大阪市・金剛寺)
 - 孝道教団
 - (横浜市・孝道山本仏殿)
- 天台寺門宗
 - (大津市・園城寺)
 - 本山修験宗
 - (京都市・聖護院)
 - 金剛宗

天台真盛宗

天台系諸派

- (愛媛県・賢如院)
- 石土宗
 - (今治市・石中寺)
- 験乗宗
 - (因島市・光明寺)
- 天台真盛宗
 - (大津市・西教寺)
- 羽黒山修験本宗
 - (山形県・荒沢寺)
- 御嶽修験宗
 - (犬山市)

真言系教団

高野山真言宗

- 高野山真言宗
 - (和歌山県・金剛峰寺)
- 真言宗大鳴派
 - (泉佐野市・七宝滝寺)
- 真言宗大覚寺派
 - (京都市・大覚寺)
- 真言宗霊雲寺派
 - (文京区・霊雲寺)
- 真言宗須磨寺派
 - (神戸市・福祥寺)
- 霊山寺真言宗
 - (奈良市・霊山寺)
- 信貴山真言宗
 - (奈良県・朝護孫子寺)
- 真言毘盧舍那宗
 - (東大阪市・千手寺)
- 真言密宗
 - (富山県・金剛不壊寺)
- 新真言宗
 - (東大阪市・長栄寺)
- 真言宗五智教団
 - (愛知県・鳳来寺)
- 天宗
 - (京都市・日仏寺聖殿)

真言宗善通寺派	肥州高野山真心言宗 (熊本市)	真言宗山階派	光明真言宗 (和歌山県・光明宝院)
	一切宗 (下関市・大王寺)		明算真言宗 (和歌山市・円蔵院)
	不動教 (名古屋市・宝林院)		真言宗国分寺派 (大阪市・国分寺)
真言宗善通寺派	真言宗善通寺派 (善通寺市・善通寺)	真言宗泉涌寺派	救世観音宗 (和歌山市・護国院)
	真言宗金剛院派 (兵庫県・金剛院)		民主真言宗児玉派 (荒尾市)
	真言宗東寺派 (京都市・東寺)		真言宗泉涌寺派 (京都市・泉涌寺)
真言宗東寺派	東寺真言宗 (京都市・教王護国寺)	真言宗豊山派	真言宗豊山派 (桜井市・長谷寺)
	真言宗醍醐派 (京都市・醍醐寺)		真言宗大日派 (足利市・鑊阿寺)
	真言聖天宗 (尼崎市・福田寺)		真言宗室生寺派 (奈良県・室生寺)
真言宗醍醐派	真言宗鳳閣寺派 (奈良県・鳳閣寺)	真言宗智山派	真言宗智山派 (京都市・智積院)
	解脱会 (新宿区)		新義真言宗 (和歌山県・根来寺)
	真如苑 (立川市・真澄寺)		真言宗神道派 (沼津市・宝珠院)
真言宗御室派	真言宗御室派 (京都市・仁和寺)	真言系諸派	真言宗当山派 (高松市)
	真言三宝宗 (宝塚市・清澄寺)		真言宗大徳寺派 (福岡県)
	石鎚山真言宗 (西条市・極楽寺)		広島県真言宗教団 (広島県)
真言宗御室派	真言宗九州教団 (福岡市)	真言系諸派	中山身語正宗 (佐賀県・滝光徳寺)
	真言宗花山院派 (三田市・菩提寺)		己教団 (久留米市・八葉閣)
	真言宗石鉄派 (西条市・前神寺)		八宗兼学真修教 (富田林市・不動院)
真言宗御室派	真言宗中山寺派 (宝塚市)	真言系諸派	辯天宗 (茨木市・如意寺)
	真言宗山階派 (京都市・勧修寺)		光明念仏身語聖宗 (佐賀県・本福寺)
	観音宗 (大阪市・大聖観音寺)		

浄土系教団

浄土宗	- 浄土宗 (京都市・知恩院) - 浄土宗捨世派 (京都市・一心院)
西山浄土宗	- 西山浄土宗 (長岡京市・光明寺) - 浄土宗西山禅林寺派 (京都市・禅林寺) - 浄土宗西山深草派 (京都市・誓願寺)
融通念仏宗	— 融通念仏宗 (大阪市・大念仏寺)
時宗	— 時宗 (藤沢市・清浄光寺)
真宗本願寺派	— 浄土真宗本願寺派 (京都市・西本願寺)
真宗大谷派	- 真宗大谷派 (京都市・東本願寺) - 浄土真宗東本願寺派 (東京本願寺) - 真宗浄興寺派 (上越市・浄興寺) - 弘願真宗 (福井市・聖玄寺) - 真宗長生派 (横浜市・長生寺) - 浄土真宗同朋教団 (石川県・平等院)
真宗高田派	- 真宗高田派 (津市・専修寺) - 真宗北本願寺派 (小樽市・北本願寺)
真宗三門徒派	— 真宗三門徒派 (福岡市・専照寺)
真宗木辺派	— 真宗木辺派 (滋賀県・錦織寺)
真宗仏光寺派	- 真宗仏光寺派 (京都市・仏光寺)

真宗出雲路派

真宗山元派

真宗誠照寺派

真宗興正派

└ 浄土真信宗浄光寺派
(福岡市・浄光寺)

— 真宗出雲路派

(武生市・毫摂寺)

— 真宗山元派

(鯖江市・証誠寺)

— 真宗誠照寺派

(鯖江市・誠照寺)

└ 真宗興正派

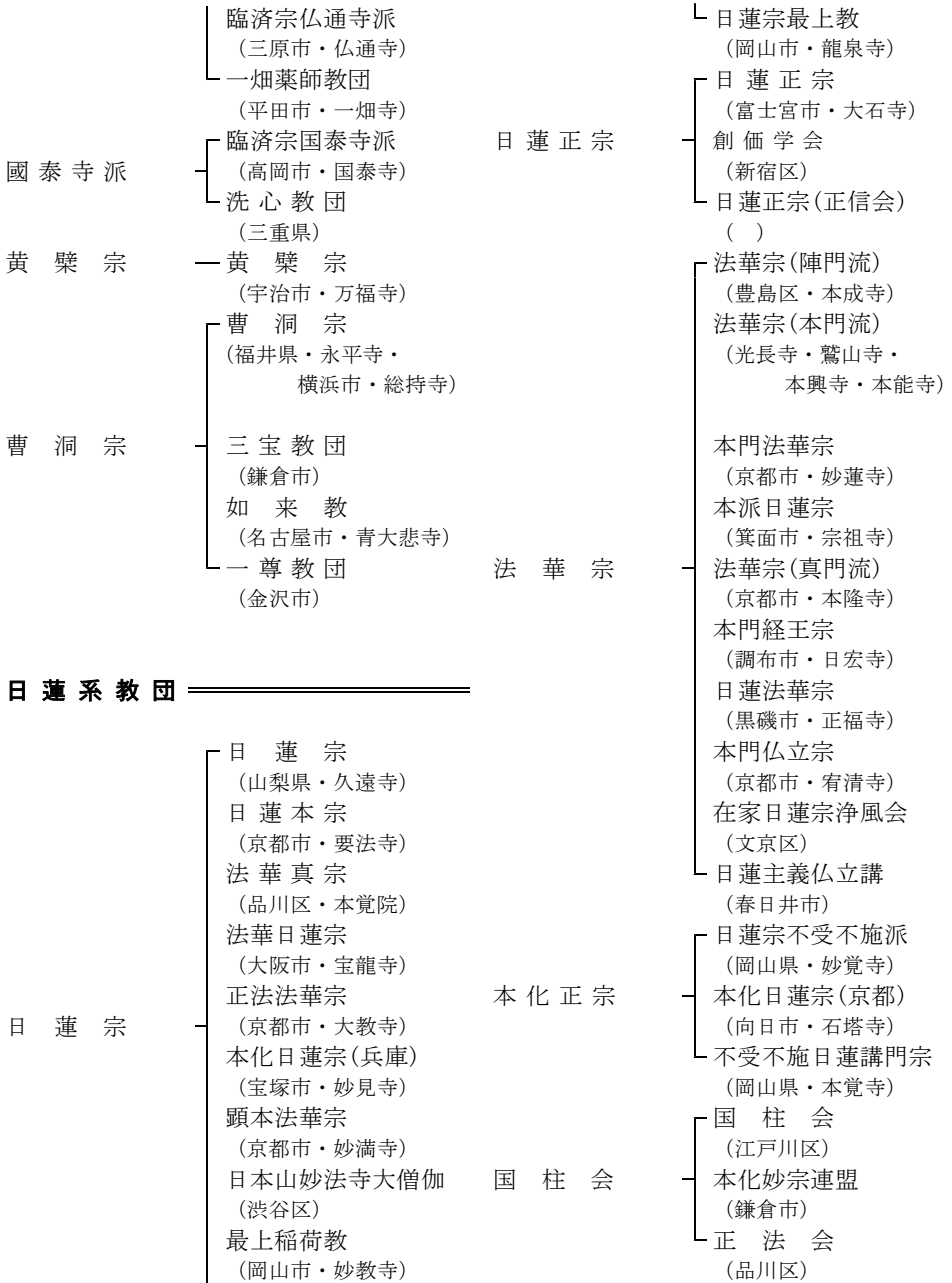
(京都市・興正寺)

└ 門徒宗一味派

禅系教団

臨済宗建仁寺派	(京都市・建仁寺)
臨済宗建長寺派	(鎌倉市・建長寺)
臨済宗東福寺派	(京都市・東福寺)
臨済宗円覚寺派	(鎌倉市・円覚寺)
臨済宗南禅寺派	(京都市・南禅寺)
臨済宗大徳寺派	(京都市・大徳寺)
臨済宗妙心寺派	(京都市・妙心寺)
臨済宗天龍寺派	(京都市・天龍寺)
臨済宗永源寺派	(滋賀県・永源寺)
臨済宗向嶽寺派	(塩山市・向嶽寺)
臨済宗相国寺派	(京都市・相国寺)
臨済宗興聖寺派	(京都市・興聖寺)
臨済宗方広寺派	(静岡県・方広寺)

臨済宗



靈友会	靈友会	律宗	一律宗
	(港区)		(奈良市・唐招提寺)
	妙智会教団	真言律宗	一真言律宗
	(渋谷区)		(奈良市・西大寺)
	仏所護念会教団		
	(港区)		
	正義会教団	その他の	
	(館山市)		
	妙道会教団		阿含宗
	(大阪市)		(港区)
日蓮系諸派	大慧会教団		福田海
	(堺市)		(岡山市)
	思親会		慈恩宗
	(伊勢原市)		(寒河江市・慈恩寺)
	立正佼成会		大仏教宗本派
	(杉並区)		(高知市)
	法師会教団		仏教生道教団
	()		(広島市)
	大乘教		妙霊界教団
	(名古屋市・大乘院)		(広島市)
	妙法宗		彦山修験道
	(桜井市)		(福岡県・英彦山霊泉寺)
	正法事門法華宗		大黒観音閣教団
	(佐賀県・妙法寺)		()
	日光教団		
	(太宰府市)		

奈良仏教系教団

法相宗	法相宗	
	(奈良市・薬師寺・奈良市・興福寺)	
	聖徳宗	
	(奈良県・法隆寺)	
華厳宗	北法相宗	
	(京都市・清水寺)	
	不動宗	
	(倉敷市・不動寺)	
	華厳宗	
	(奈良市・東大寺)	

仏教系大学・短大一覧

仏教系大学

大谷大学（真宗大谷派）京都市北区小山上総町

高野山大学（高野山真言宗）和歌山県伊都郡高野町高野山 385

駒沢大学（曹洞宗）東京都世田谷区駒沢 1-23-1

大正大学（天台宗・真言宗智山派・真言宗豊山派・浄土宗の三宗四派の運営）

東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

花園大学（臨済宗妙心寺派）京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

立正大学（日蓮宗）東京都品川区大崎 4-2-16

龍谷大学（浄土真宗本願寺派）京都市伏見区深草塚本町 67

東洋大学（哲学）東京都文京区白山 5-28-20

仏教大学（浄土宗）京都市北区紫野北花ノ坊町 96

愛知学院大学（曹洞宗）愛知県名古屋市中千種区楠元町 1-100

種智院大学（東寺真言宗）京都市南区壬生通八条下ル東寺町 545

同朋大学（真宗大谷派）愛知県名古屋市中村区稲葉地町 7-1

鶴見大学（曹洞宗）神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3

創価大学（創価学会）東京都八王子市

四天王寺国際仏教大学（和宗）大阪府羽曳野市学園前 3-2-1

東北福祉大学（曹洞宗）宮城県仙台市青葉区国見 1-8-1

埼玉工業大学（浄土宗・智香寺）埼玉県大里郡岡部町大字普済寺 1690

足利工業大学（足利仏教和合会）栃木県足利市大前町 268-1

淑徳大学（浄土宗）千葉県千葉市中央区大巖寺町 200

駒沢女子大学（曹洞宗）東京都稲城市坂浜 238

武蔵野大学（浄土真宗本願寺派）東京都西東京市新町 1-1-20

文教大学（日蓮宗）埼玉県越谷市南荻島 3337

聖徳学園岐阜教育大学（浄土真宗本願寺派）岐阜県羽島郡柳津町高桑 2078

名古屋音楽大学（真宗大谷派）愛知県名古屋市中村区稲葉地町 7-1
 名古屋造形芸術大学（真宗大谷派）愛知県小牧市大字大草字年上坂 6004
 日本福祉大学（日蓮宗）愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前 35-6
 京都女子大学（浄土真宗本願寺派）京都市東山区今熊野北日吉町 35
 光華女子大学（真宗大谷派）京都市右京区西京極葛野町 38
 大谷女子大学（真宗大谷派）大阪府富田林市錦織志学台
 相愛大学（浄土真宗本願寺派）大阪市住之江区南港中 4-4-1
 筑紫女学園大学（浄土真宗本願寺派）福岡県太宰府市石坂 2-12-1
 桜花学園大学（真宗大谷派）愛知県豊明市栄町武侍 48
 国際仏教学大学院大学（靈友会）東京都港区虎ノ門 5-3-23
 苫小牧駒沢大学（曹洞宗）北海道苫小牧市錦岡 521-293

仏教系短期大学

帯広大谷短期大学（真宗大谷派）北海道河東郡音更町希望が丘 3
 札幌大谷短期大学（真宗大谷派）北海道札幌市東区北 16 条東 9
 函館大谷女子短期大学（真宗大谷派）北海道函館市鍛冶 1-2-3
 足利短期大学（足利仏教和合会）栃木県足利市本城 3-2120
 聖和学園短期大学（宮城県仏教会）宮城県仙台市泉区南中山 5-5-2
 駒沢女子短期大学（曹洞宗）東京都稲城市坂浜 238
 駒沢短期大学（曹洞宗）東京都世田谷区駒沢 1-23-1
 淑徳短期大学（浄土宗）東京都板橋区前野町 5-5-2
 立正大学短期大学部（日蓮宗）埼玉県熊谷市万吉 1700
 東京立正女子短期大学（日蓮宗）東京都杉並区堀之内 2-41-15
 東洋大学短期大学（哲学）東京都文京区白山 5-28-20
 宝仙学園短期大学（真言宗豊山派・宝仙寺）東京都中野区中央 2-33-26
 武蔵野大学短期大学部（浄土真宗本願寺派）東京都西東京市新町 1-1-20
 鶴見大学短期大学部（曹洞宗）神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
 文教大学女子短期大学部（日蓮宗）神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100
 身延山短期大学（日蓮宗）山梨県南巨摩郡身延町身延 3567

飯田女子短期大学（真宗大谷派）長野県飯田市松尾代田 610
 正眼短期大学（臨濟宗妙心寺派・正眼寺）岐阜県美濃加茂市伊深町 876-10
 聖徳学園女子短期大学（浄土真宗本願寺派）岐阜県岐阜市中鶉 1-38
 愛知学院短期大学（曹洞宗）愛知県名古屋市中千種区楠元町 1-100
 愛知文教女子短期大学（真宗大谷派）愛知県稲沢市西町 1-1-41
 東海学園女子短期大学（浄土宗）愛知県名古屋市天白区中平 2-901
 名古屋造形芸術短期大学（真宗大谷派）愛知県小牧市大字大草字年上坂 6004
 名古屋短期大学（真宗大谷派）愛知県豊明市栄町武侍 48
 日本福祉大学女子短期大学部（日蓮宗）愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前 35-6
 仁愛女子短期大学（真宗誠照寺派）福井県福井市天池町 43-1-1
 高田短期大学（真宗高田派）三重県津市一身田豊野 195
 大谷大学短期大学部（真宗大谷派）京都市北区小山上総町
 華頂短期大学（浄土宗）京都市東山区林下町 3-456
 京都女子大学短期大学部（浄土真宗本願寺派）京都市東山区今熊野北日吉町 35
 京都文教短期大学（浄土宗）京都府宇治市槇島町千足 80
 光華女子短期大学（真宗大谷派）京都市右京区西京極葛野町 38
 嵯峨美術短期大学（真言宗大覚寺派）京都市右京区嵯峨五島町 1
 西山短期大学（西山浄土宗）京都府長岡京市栗生西条 26
 龍谷大学短期大学部（浄土真宗本願寺派）京都市伏見区深草塚本町 67
 大谷女子短期大学（真宗大谷派）大阪府富田林市錦織 942-1
 四天王寺国際仏教大学短期大学部（和宗）大阪府羽曳野市学園前 3-2-1
 相愛女子短期大学（浄土真宗本願寺派）大阪市住之江区南港中 4-4-1
 大阪千代田短期大学（高野山真言宗）大阪府河内長野市楠町西 1211
 兵庫女子短期大学（浄土真宗本願寺派）兵庫県加古川市平岡町新在家 2301
 九州大谷短期大学（真宗大谷派）福岡県筑後市蔵数 495-1
 筑紫女学園短期大学（浄土真宗本願寺派）福岡県太宰府市石坂 2-12-1
 九州龍谷短期大学（浄土真宗本願寺派）佐賀県鳥栖市村田町岩井手 1350
 東九州女子短期大学（浄土真宗本願寺派）大分県中津市一ツ松 211

キーワード集

キーワードの冒頭の〔 〕の中に分野名を、
末尾の（ ）にジャンルを略語で示した。

略語一覧

〔分野〕

〔語〕 — 用語

〔書〕 — 書名

〔人〕 — 人名

〔ジャンル〕

【インド】

〔印度〕 — インド仏教（含む、哲学）

〔西藏〕 — チベット仏教

〔南方〕 — 南方仏教

【東アジア】

〔中国〕 — 中国仏教

〔朝鮮〕 — 朝鮮仏教

【日本】

〔伝奈〕 — 仏教伝来から奈良仏教

〔密天〕 — 天台宗・天台密教

〔密真〕 — 真言宗・真言密教

〔禅臨〕 — 禅宗・臨済宗

〔禅曹〕 — 禅宗・曹洞宗

〔浄土〕 — 浄土系・浄土宗

〔浄真〕 — 浄土系・浄土真宗

〔日蓮〕 — 日蓮宗

〔其他〕 — その他

《あ行》

〔語〕 悪人正機（アクニンショウキ）（浄真）

〔書〕 阿含経（アゴンキョウ）（印度）

〔語〕 阿字観（アジカン）（密真）

〔人〕 **アショーカ王（阿育王）**

（アショーカウ）（印度）

〔語〕 **阿毘達磨（アビダルマ）**

（アビダツマ）（印度）

〔書〕 **阿弥陀経（アマダキョウ）**

（印度／浄土／浄真）

〔書〕 一枚起請文（イチマイキシヨウモン）

（浄土）

〔人〕 一休宗純（イツキュウソウジュン）

（禅臨）

〔語〕 **一向宗（イツコウシュウ）**（浄真）

〔書〕 一遍上人語録

（イッペンショウニンゴロク）（浄土）

〔人〕 **一遍智真（イッペンチシン）**（浄土）

〔人〕 **隠元隆琦（インゲンリュウキ）**（禅臨）

〔人〕 **ヴァスミトラ（世友）**（印度）

〔書〕 **ヴェーダ**（印度）

〔書〕 **ウパニシャッド**（印度）

〔書〕 孟蘭盆経（ウラボンキョウ）（中国）

〔語〕 雲水（ウンスイ）（禅臨／禅曹）

〔人〕 雲棲株宏（ウンセイシュコウ）（中国）

〔人〕 **栄西（明庵栄西）**（エイサイ）（禅臨）

〔書〕 永平広録（エイヘイコウロク）（禅曹）

〔人〕 懷奘（エジョウ）（禅曹）

〔人〕 恵信尼（エシンニ）（浄真）

〔人〕 **慧能（エノウ）**（中国）

〔人〕 **円仁（エンニン）**（密天）

〔人〕 役小角（エンノオツヌ）（伝奈）

〔書〕 **往生要集**（オウジョウヨウシュウ）

（密天／浄土）

〔書〕 往生論（浄土論）（オウジョウロン）

（印度／浄土）

〔人〕 **黄檗希運（オウバクキウン）**（中国）

〔語〕 黄檗宗（オウバクシュウ）（禪臨）
 〔語〕 踊念仏（踊躍念仏）
 （オドリネンブツ）（浄土）
 〔書〕 御文（御文章）（オフミ）（浄真）
 〔書〕 遠羅天釜（オラテガマ）（禪臨）

 《か行》
 〔語〕 回峰行（カイホウギョウ）（密天）
 〔書〕 開目抄（カイモクショウ）（日蓮）
 〔書〕 学道用心集
 （ガクドウヨウジンシュウ）（禅曹）
 〔人〕 覺鑊（カクバン）（密真）
 〔人〕 河口慧海（カワグチエカイ）（其他）
 〔人〕 元曉（ガンギョウ）（朝鮮）
 〔人〕 鑑真（ガンジン）（伝奈）
 〔書〕 観心覚夢鈔
 （カンジンカクムショウ）（伝奈）
 〔書〕 観心本尊抄
 （カンジンホンゾンショウ）（日蓮）
 〔書〕 観音経（カンノンギョウ）（印度）
 〔書〕 観無量寿経（カンムリョウジュキョウ）
 （印度／浄土／浄真）
 〔人〕 義湘（ギショウ）（朝鮮）
 〔人〕 吉蔵（キチゾウ）（中国）
 〔書〕 狂雲集（キョウウンシュウ）（禪臨）
 〔人〕 行基（ギョウキ）（伝奈）
 〔書〕 教行信証（キョウギョウシンショウ）
 （浄真）
 〔人〕 清沢満之（キョザワマンシ）（浄真）
 〔人〕 空海（クウカイ）（密真）
 〔人〕 空也（クウヤ）（浄土）
 〔書〕 俱舍論（クシャロン）（印度）
 〔人〕 瑩山紹瑾（エイザンジョウキン）（禅曹）
 〔書〕 華嚴経（ケゴンキョウ）（印度）
 〔語〕 華嚴宗（ケゴンシュウ）（中国／伝奈）

〔書〕 解深密経（ゲジンミツキョウ）（印度）
 〔人〕 玄奘（ゲンジョウ）（中国）
 〔人〕 源信（ゲンシン）（密天）
 〔語〕 公案（コウアン）（禪臨）
 〔書〕 興禅護国論（コウゼンゴコクロン）
 （禪臨）
 〔語〕 護摩（ゴマ）（密天／密真）
 〔書〕 金剛頂経（コンゴウチョウキョウ）
 （印度）
 〔書〕 金剛般若経
 （コンゴウハンニャキョウ）（印度）

《さ行》

〔人〕 最澄（サイチョウ）（密天）
 〔書〕 三経義疏（サンギョウギシヨ）（伝奈）
 〔書〕 山家学生式
 （サンゲガクショウシキ）（密天）
 〔書〕 三教指帰（サンゴウシイキ）（密真）
 〔書〕 三帖和讃（サンジョウワサン）（浄真）
 〔語〕 サンスクリット語
 （サンスクリットゴ）（印度）
 〔書〕 参同契（サンドウカイ）（中国）
 〔語〕 只管打坐（シカンタザ）（禅曹）
 〔語〕 時宗（ジシュウ）（浄土）
 〔語〕 四十八願（シジユウハチガン）
 （浄土／浄真）
 〔書〕 地藏菩薩本願経
 （ジゾウボサツホンガンキョウ）（印度）
 〔語〕 七高僧（シチコウソウ）（浄真）
 〔書〕 四分律（シブンリツ）（印度）
 〔人〕 島地黙雷（シマジモクライ）（浄真）
 〔人〕 釈迦（釈迦牟尼）（シャカ）（印度）
 〔書〕 ジャータカ（南方）
 〔書〕 十牛図（ジュウギユウズ）
 （中国／禪臨）

— 39 —

〔人〕 曇鸞（ドンラン）（中国）

《な行》

〔書〕 南海寄帰内法伝

（ナンカイキキナイハウデン）（中国）

〔語〕 南伝仏教（ナンデンブツキョウ）（南方）

〔語〕 南都六宗（ナントロクシュウ）（伝奈）

〔人〕 日蓮（ニチレン）（日蓮）

〔語〕 日蓮宗（ニチレンシュウ）（日蓮）

〔書〕 涅槃経（ネハンギョウ）（印度）

〔語〕 念仏（ネンブツ）（浄土／浄真）

《は行》

〔語〕 パーリ語（パーリゴ）（印度／南方）

〔人〕 白隠慧鶴（ハクインエカク）（禅臨）

〔書〕 八宗綱要（ハッシュウコウヨウ）（伝奈）

〔人〕 盤珪永琢（バンケイユウタク）（禅臨）

〔人〕 パンチェン＝ラマ（西藏）

〔書〕 般若経（ハンニャキョウ）（印度）

〔書〕 般若心経（ハンニャシンギョウ）（印度）

〔書〕 般若心経秘鍵

（ハンニャシンギョウヒケン）（密真）

〔書〕 普勸坐禅儀（フカンザゼンギ）（禅曹）

〔書〕 不動智神妙録

（フドウチシンミョウロク）（禅臨）

〔人〕 プトゥン（西藏）

〔書〕 父母恩重経

（ブモオンジュウキョウ）（中国）

〔書〕 碧巖録（ヘキガンロク）（中国／禅臨）

〔書〕 弁頭密二教論

（ベンケンミツニキョウロン）（密真）

〔書〕 報恩抄（ハウオンショウ）（日蓮）

〔書〕 宝鏡三昧（ハウキョウザンマイ）（中国）

〔人〕 法蔵（ハウゾウ）（中国）

〔人〕 法然（ハウネン）（浄土）

〔書〕 法華経（ホケキョウ）（印度）

〔人〕 菩提達摩（達磨）

（ボダイダルマ）（印度）

〔書〕 法句経（ホツクキョウ）（印度）

〔語〕 法相宗（ホツソウシュウ）（伝奈）

〔語〕 本覚思想（ホンガクシソウ）（印度）

〔書〕 梵網経（ボンミョウキョウ）（印度）

《ま行》

〔書〕 摩訶止観（マカシカン）（中国）

〔語〕 曼荼羅（マンドラ）（密真）

〔人〕 明恵（ミョウエ）（伝奈）

〔語〕 妙好人（ミョウコウニン）（浄真）

〔人〕 夢窓疎石（ムソウソセキ）（禅臨）

〔書〕 夢中間答集

（ムチュウモンドウシュウ）（禅臨）

〔書〕 無門関（ムモンカン）（中国／禅臨）

〔書〕 無量寿経（ムリョウジュキョウ）

（印度／浄土／浄真）

《や行》

〔書〕 夜船閑話（ヤセンカンナ）（禅臨）

〔書〕 遺教経（ユイキョウギョウ）（印度）

〔語〕 唯識（ユイシキ）（印度）

〔書〕 唯識三十頌

（ユイシキサンジュウジュ）（印度）

〔書〕 唯識二十論

（ユイシキニジュウロン）（印度）

〔書〕 維摩経（ユイマギョウ）（印度）

〔語〕 融通念仏宗

（ユウズウネンブツシュウ）（浄土）

〔書〕 瑜伽師地論（ユガシジロン）（印度）

《ら・わ行》

〔語〕 ラマ教（ラマキョウ）（西藏）

〔書〕 リグ=ヴェーダ (印度)

〔書〕 理趣経 (リシュキョウ) (印度)

〔語〕 律宗 (リッシュウ) (伝奈)

〔書〕 立正安国論

(リッショウアンコクロン) (日蓮)

〔人〕 龍樹 (ナーガールジュナ)

(リュウジュ) (印度)

〔書〕 楞伽経 (リョウガキョウ) (印度)

〔人〕 良寛 (リョウカン) (禅曹)

〔人〕 臨済義玄 (リンザイギゲン) (中国)

〔語〕 臨済宗 (リンザイシュウ)

(中国／禅臨)

〔書〕 臨済録 (リンザイロク) (中国)

〔人〕 蓮如 (レンニョ) (浄真)

〔書〕 驢鞍橋 (ロアンキョウ) (禅曹)

仏教書総目録ホームページの使い方

<http://www.bukkyosho.gr.jp/>



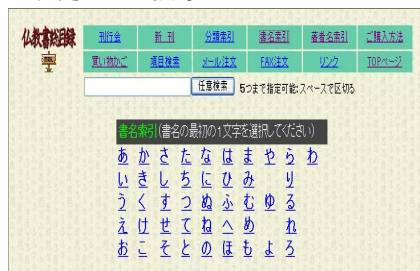
【分類索引】

13分類の表示があります。目的の分類から検索できます。



【書名索引】書名の最初の1文字から検索できます。

【著者名索引】著者名の最初の1文字から検索できます



< 検索と注文 >

『仏教書総目録』の全データの中から項目・任意検索し注文が出来ます。

トップページから分類索引、書名索引、著者名索引、から調べたい検索方法を選ぶことにより「項目検索」や「任意検索」による検索が可能となります。上部はメニューバーが表示され、その下にいつでも「任意検索」は表示されます。

【項目検索】

書名、著者名、内容解説による複合検索（論理演算）ができます。

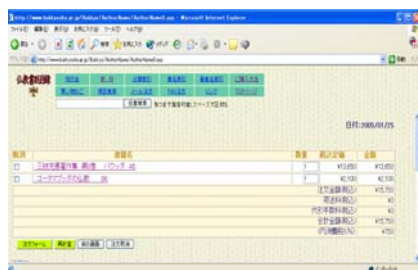
【任意検索】

版元名、ISBN、書名、著者名、内容解説の一部を入力枠に入力して検索することができます。



【書籍の注文】買い物かごによる方法

検索し目的の本が見つかりましたら詳細まで開き  を押すとあなたの購入リストが自動で作成されます。



注文フォーフォームのボタンを押すとお客様の情報の入力画面が出ます。一度登録しますとお名前と電話番号を入力するだけで、登録済みの情報を呼び出せます。

< リンク集 >

仏教教団および関係団体、仏教系大学・短大、研究機関などへ仏教関係の他のホームページへアクセスができます。

< 掲載者名簿 >

仏教書総目録掲載出版社の住所、電話番号、ファックス番号一覧

< メールサービス >

新刊情報をメールにて月初めにお届けしております。過去のメールも閲覧できます。

< 仏教書新刊情報 > 毎月更新

仏教書総目録は毎年10月に発行。その後の新刊情報として法蔵館書店に入荷した新刊を毎月翌月更新。データベースで検索し注文が可能。

仏教書目録刊行会協賛のフェアは、ホームページにて随時告知しておりますので、お近くの方は、お立ち寄り下さい。

ホームページについてのお問合せは、法蔵館まで

FAX 075-371-0458 TEL 075-343-0458
mail info@hozokan.co.jp
URL http://www.bukkyosho.gr.jp

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....メモ

仏教書総目録刊行会幹事社

春秋社	101-0021 千代田区外神田 2-18-6 TEL. 03-3255-9611 FAX. 03-3253-1384
誠信書房	112-0012 文京区大塚 3-20-6 TEL. 03-3946-5666 FAX. 03-3945-8880
大蔵出版	171-0033 豊島区高田 1-6-13 竹前ビル 3F TEL. 03-5956-3291 FAX. 03-5956-3292
大法輪閣	150-0011 渋谷区東 2-5-36 大泉ビル 2F TEL. 03-5466-1401 FAX. 03-5466-1408
筑摩書房	111-0051 台東区蔵前 2-5-3 コムロビル TEL. 03-5687-2680 FAX. 03-5687-2685
東京大学出版会	113-0033 文京区本郷 7-3-1 東大構内 TEL. 03-3811-8814 FAX. 03-3812-6958
中山書房仏書林	113-0034 文京区湯島 2-14-4 TEL. 03-3833-7676 FAX. 03-3833-7677
法蔵館	600-8153 京都市下京区正面烏丸東入ル TEL. 075-343-0458 FAX. 075-371-0458
吉川弘文館	113-0033 文京区本郷 7-2-8 TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3912-3544

仏教の歴史———仏教のすすめ

2005年1月25日 発行 ©

発行 仏教書総目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町 6-24 トーハン内
(非売品)

本書に関するお問い合わせ先・法蔵館(Eメールまたはファクスでお願いします)

Eメール: info@hozokan.co.jp FAX. 075-371-0458